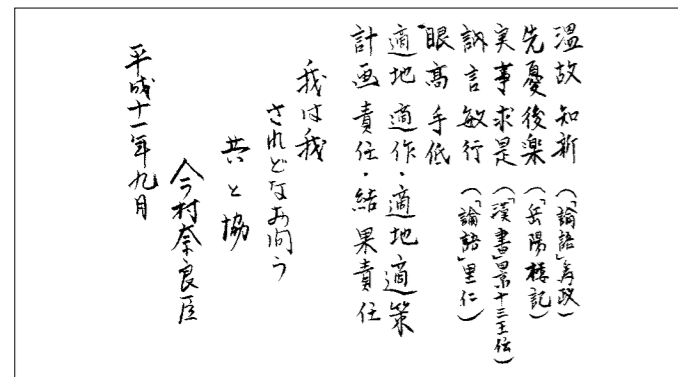


「コロナ禍を乗り越える」ための参考資料

参考 ①

今後の農業経営を考える銘言



▲食料・農業・農村政策審議会 初代会長就任時の思い

東京大学名誉教授 今村 奈良臣 塾長 令和2年2月28日ご逝去
大分県出身、おおいの農業平成塾塾長 (平成2年~11年)

【銘言の解説】

平成12年1月21日(金)に大分市の農業共済会館で開催された東京大学名誉教授今村奈良臣先生による「21世紀農業は花形産業」の講演録からの抜粋

「これは、平成11年9月。なぜ、9月のを」今頃書くのか、正月なら正月らしく書いていられるかもしれませんが、去年、9月6日に、食料・農業・農村政策審議会の会長に互選され、内閣総理、小淵総理から、今村さんを会長に任命しますということになったわけです。

その後、福島の三春農林塾に行って講義した後、一杯、みんなでワイワイ飲んでる時に、面白いというかしたたかな奴がいて、「先生、会長になった所信を述べろ」というわけです。「こんなに飲んで所信を述べられるか」というと、「それも述べられようならもう首や」などと言うから、「筆持ってこい」と書いたのがこれです。

あんまり筆がよくなかったということもあるし、酔っぱらったこともありちょっと金釘流ですが、精神はこういことなんです。
温故知新(「論語」為政)。帰って子供さんか、お孫さんあたりの辞書持ってきて、明日ぐらい頭しっかりとした時に、ちょっと引いてみてください。簡単に言えばですね。先人の知恵をよく勉強して、批判検討し将来に活かす。温故知新ですね。

先憂後樂(「岳陽樓記」)。天下の憂いを先に悟り、天下に遅れて樂をする。これリーダーの鉄則ですね。残念ながら我が国の政治家や経済界の多くはどちらも先楽後憂が多すぎるんですね。

それから美事求是(「漢書」景十三王伝)。これは事実や実態の動きを的確に調査分析する中から、新しい原則、法則、路線、方向を探り当てる。

これは、毛沢東とか鄧小平が使い出して急に有名になったんですね。ですが、それは間違いない考え方です。

訥言敏行(「論語」里仁)。これは、口ばかり言うんじゃなくて、口重く黙っていても、腹を決めて、やるべきことは、敏速に積極的に行う。敏速に行うということです。

眼高手低というのは、これは私が作った言葉です。歴史の残るかどうかしりませんが、意味はわかりますね。考えるところ、見るところは高く、広く、しかし、日々地道にやる。だから望みは高く、日々行う実践は着実に、手は低く。

それから適地適作・適地適業。この二つがやっぱり大事だと思うんです。両方そろって。

それから私が特に農林水産省の職員に言っているのは、計画責任、計画立てる責任もあるし、その計画立てた責任と同時に結果責任を問われなければならないということ。

成果がどうなったか、そこまで調べて誤りは正していき初めて行政というのは意味を持つ。これは行政だけでなく、皆さんも日常的にいろいろの場ややって欲しいところです。

会社だってこれを本当にわかった社員ばかりだとたぶん会社は降々たるものだろうと思います。私は、会長としては計画する立場であり、10年先生きていこうかかわかりませんが、何としても結果についての責任は取ろう。取り方はどうするかは、それはまたいろいろ方法ありますからね。考えますけれども。

そういうことを考えて、ちょっと酒飲みながらだったから調子が高すぎたかなと思ってますが、しかしまあこういうことをやろうという考えだということを書いたわけです。

塾生は何度も聞いた人もいるかもしれないが、新人もおられますし、役所のいろいろなかわりましたから、一応、最初から話します。「我は我、されどなお問う、共と協」。これは私が作った川柳です。これが、農村をこれから新しい方向へ向かわせる場合の基本だと私は相変わらず考えてます。

「我は我」というのは、個の自立。あるいは個の確立ということですかね。我は我ですから。それから当然、自己責任、自己責任の原則。これはもう当然。同時にこのことは経済行為から言えば市場原理を意味しています。つまり市場のメカニズムといいますが、「我は我」がないところには、つまり個の自立がないところは市場原理というのはいりこないわけです。

とにかく、「我は我」という考えは基本だと思えます。しかし、「市場原理だけでは総べてうまくいきませんか。いやいけませんよ」という課題を「共」、地域ということですね。あるいは、ちょっと古い言葉ですが、共同体と言い換えてもいいんですけど、その共です。あるいは集落。

これは他の産業と非常に違うところですが、農業というのは土地産業ですから、基本は土地です。ですから地域を離れることができないんですよ。この土地産業という意味には、水利とかいろいろな資源を同時に含んでいるという意味です。

地域を離れて代わるといことは出来ません。これが基本です。勝手だ、どこへ行こうと勝手だということではないわけです。

だから地域をきっちりと良くしなさいいけない。それから、「協」というのは、字からして心と力を会わせるということですが、これは必ずしも協同組合という意味での協ではないんです。

心と力を会わせずに、プラス資本の結合を考えた時には企業でも、あるいは株式会社も有限会社も企業の一形態ですから、資本結合と心と力の結合。つまりその基本は、人材ということになります。資本と人材を結合させるということが必要です。ベースは地域に置かない限り、だめです。置かなかったら農業でないんです。この2つを忘れてはダメです。しかし片方では、市場原理、我は我。これがなくちゃダメです。この、3つをどうつないでいかということが大事ですが、こういう方向へ持って行くのが一番難しく、これがリーダーの役割です。

今日おいでの方々は地域のリーダーになるために塾と一緒に研鑽し、私も粉骨砕身、一生懸命努力したつもりです。

皆がただの農業者で、ただ普通の、「わしも地域の一人」というんだったら、別にこれだけの県費をつぎ込み、私も骨惜みみずにする必要はなかったのですが、皆さんを現実的に、明日の大分県農業、地域農業を背負っていただくリーダーにしたいがために、平成塾をやったわけですから、ぜひ、このところをもう一度考えていただきたいということを書いてあります。

参考 ②

◆新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のために◆
「新しい生活様式」を実践しましょう

基本的な感染対策

- ☑こまめに手洗い・手指消毒
- ☑咳エチケットの徹底(外出時はマスク着用)
- ☑3密(密集・密接・密閉)を避ける
- ☑人との間隔はできるだけ2m(最低1m)
- ☑会話は可能な限り真正面を避ける
- ☑窓を開け、こまめな換気(1時間に5~10分程度)
- ☑地域の感染状況に注意する

買い物

- ・1人または少人数で空いた時間に
- ・計画をたてて早く済ませ
- ・展示品への接触は控える
- ・レジに並ぶときは、前後にスペース
- ・電子決済を利用する
- ・通販も利用する

食事

- ・対面を避けるなど座り方を工夫する
- ・おしゃべりは控える
- ・大皿は最初に取り分ける
- ・お酌は控え、回し飲みはしない
- ・持ち帰りやデリバリーも活用

スポーツ・娯楽等

- ・散歩やジョギングは少人数で
- ・すれ違うときは距離をとる
- ・公園は、空いた時間、場所を選ぶ
- ・施設利用時は予約して混雑を避ける

働き方

- ・テレワーク、ローテーション勤務の導入
- ・時差出勤でゆったりと
- ・オフィスはひろびろと
- ・会議はオンラインを活用
- ・打合せはマスク着用、スペースの確保

【大分県新型コロナウイルス感染症対策本部】 大分県 新型コロナ 検索

写真提供：国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会
「The・おおい」ブランド流通対策本部
大分県園芸活性化協議会

JAバンク大分

令和4年度

新型コロナウイルス対策(中間まとめ) 次世代農業経営者研修会

日時 令和4年4月19日(火) 13:00~16:45

場所 トキハ会館5階「ローズの間」

主催
次世代農業経営者ネットワーク
JA 大分信連

令和4年度 新型コロナ対策(中間まとめ)次世代農業経営者研修会 ～コロナ禍を乗り越える～

目的

国内の新型コロナウイルス感染症拡大から2年が経過し、社会経済の構造が大きく変貌しています。ワクチン開発や接種は進んできていますが、ウイルス変異株の発生もあり、世界的にコロナ禍終息の見通しがたない状況です。

農業の生産現場では、3密回避、外食産業の落ち込みや外国人の入国制限などで多大なダメージを受けながら、この激変に対応しています。

当ネットワークは、令和2・3年度に「コロナ禍を乗り越える」をテーマとした特別研修会を緊急開催し、現状把握と課題、そして対策を検討するとともに実践し、各会員に情報を提供してきました。

今回は、今までの新型コロナ対策の取組の中間まとめと位置づけ、農業・農村の取り巻く環境を踏まえ、今後の農業経営及び地域農業の展開方向を見出すために会員と地域農業を牽引している農業経営者及び関係者も含めた研修会として開催します。

また、2月24日のロシアのウクライナ侵攻で世界情勢が混沌とし、農業を取り巻く環境が一層厳しくなることが予想されますので、その影響と対策も考えます。

日程

- 日時 令和4年4月19日(火) 13:00～16:45
- 場所 トキハ会館5階「ローズの間」
- 主催 次世代農業経営者ネットワーク、JA大分信連

1 あいさつ 13:00～13:20

2 基調講演 13:30～14:15

- ・ 谷口 信和 塾長 東京大学名誉教授
- 「いったい日本の食と農はどこへ向かうのか」
- ～コロナ禍・みどり戦略・ウクライナ戦争を通して足元から考える～

3 情報提供① (コロナ対策: 情報・雇用) 14:30～14:50

令和3年度大分県次世代農業プロジェクト支援事業実施報告

4 パネルディスカッション テーマ「コロナ禍を乗り越え、次へ」 14:50～16:20

- 【コーディネーター】
- ・ 林 浩昭氏 大分県農林水産研究指導センター顧問
- 【アドバイザー】
- ・ 谷口 信和 塾長 東京大学名誉教授
- 【パネリスト】
- ・ 大窪 勉さん 谷口農業塾1期生
- ・ 入田 慎太郎さん ネットワーク事務局長
- 【活動報告者】
- 令和2・3年度研修会パネリスト 9名

5 情報提供② 16:20～16:40

令和4年度大分県学び続ける経営体育成支援事業の紹介

6 閉会 ～16:45

参集範囲

次世代農業ネットワーク会員、農業経営者、JA営農指導員、関係機関等 70名、リモート参加者 100名
※進行の都合で、一部日程が変更する場合がありますので、予めご了承ください。

基調講演



題目 「いったい日本の食と農はどこへ向かうのか」
～コロナ禍・みどり戦略・ウクライナ戦争を通して足元から考える～

講師 谷口 信和 塾長 東京大学名誉教授

経歴

昭和47年4月	東京大学農学部卒業	平成24年4月	東京農業大学農学部教授
平成6年6月	東京大学農学部教授	～30年3月	
平成8年4月	東京大学大学院農学生命科学研究科教授	現在	「農村と都市をむすぶ」誌編集代表、農業協同組合研究会会長
～24年3月			

パネルディスカッション

テーマ「コロナ禍を乗り越え、次へ」



コーディネーター 林 浩昭氏 大分県農林水産研究指導センター 顧問

経歴

昭和35年	東国東郡安岐町両子生まれ	平成16年～現在	農林業自営
昭和58年	東京大学農学部農芸化学科卒業	平成22年～現在	大分県農林水産研究指導センター 顧問
平成7年1月	東京大学大学院農学生命科学研究科助教授	平成25年～現在	国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会会長
平成15年12月	同 退職		

パネリスト



大窪 勉さん 葱屋おおくぼ(有)代表
昭和41年生まれ

- 就農 平成3年
- 在住地 宇佐市青森
- 経営概況 雇用型施設園芸・6次産業化経営
本人、妻、常時雇用3名、
技能実習生2名、特定技能1名
こねぎ栽培施設2.4ha、ねぎ専門飲食
店舗3店(宇佐市2店、大分市1店)



入田 慎太郎さん
昭和46年生まれ

- 就農 平成16年
- 在住地 竹田市次倉
- 経営概況 施設園芸・露地野菜経営
本人、妻、両親、パート1名
ピーマン33a、ニンニク40a、
水稲150a、椎茸5万コマ

活動報告者

令和2年度パネリスト



安部 元昭さん(果樹)



川野 晃永さん(畜産)



北崎 昌靖さん(野菜)



宮田 宗武さん(果樹)



柳井 博之さん(花き)

令和3年度パネリスト



和泉 陣さん(野菜・果樹)



植木 喜久生さん(野菜)



酒井 勝洋さん(水田作)



高橋 毅さん(畜産)

※()は主な経営作物